



山行報告

2014年夏山集中山行

◆ ① ゆっくリズム山行 独標から上高地

山行日：8月23日(土)～8月25日(月)

参加者：La 須増 SLa 森本 香川 木村 清水 田口(善) 田中(重) 田羅間(勤) 前川(典)
 : Lb 渡邊(俊) SLb 澤田(卓) 石田 北口 田口(末) 田中(美) 田中(由) 前川(克)
 峯山

ルート：新穂高温泉～ロープウェイ～西穂山荘(泊)～丸山～独標～西穂山荘～上高地

行動記録

| 8月23日(土) | | |
|--------------------|-------|-------|
| 場所 | 着 | 発 |
| 新穂高温泉駅 (ロープウェイ) | 12:30 | 13:00 |
| 西穂高口駅 | 13:25 | |
| 西穂高登山口 | | 13:55 |
| 休憩 | 14:30 | 14:35 |
| 休憩 | 15:10 | 15:15 |
| 西穂山荘 | 15:35 | |
| 8月24日(日) | | |
| 場所 | 着 | 発 |
| 西穂山荘 | | 4:35 |
| 西穂丸山 | 4:55 | 5:15 |
| 休憩 | 5:37 | 5:42 |
| 西穂独標 | 6:25 | 6:35 |
| 西穂丸山 | 7:25 | 7:35 |
| 西穂山荘 | 7:50 | 10:00 |
| 休憩 | 11:00 | 11:05 |
| 休憩 | 12:20 | 12:27 |
| 田代橋 | 13:35 | 13:45 |
| 西糸屋山荘 | 14:10 | |



初めての夏山集中山行

木村

8月23日、曇り空での出発でしたが、乗り換えた名古屋では大雨でした。今年の夏は「平成26年8月豪雨」と命名されるほどの悪天候の日が多く、出発前は不安でした。しかし、高山に着くと晴れており、ほっとしました。ジャンボタクシー、ロープウェイと乗り換え西穂高口に着くと、尾根沿いに今夜泊まる西穂山荘が見えました。皆でス

トレッチをして西穂山荘に向けて出発。山荘の辺りには、紫色のトリカブトの花が綺麗に咲いていました。夜は満天の星空にうっとり。その中に人口衛星の軌道が二つ見えたのですが、どちらかが国際宇宙ステーションだったようです。そしてラッキーなことに流れ星も見ることができ、この日は幸せな気分で就寝。



翌日は4時前に起床。ストレッチの後、A班とB班に分かれ独標を目指しました。途中、丸山でご来光を見る予定でしたが、天候が悪く残念！次第に明るくなってきたものの、ガスが立ち込め、視界はほとんどなし。足元に咲く、白いりんどうやホタルブクロの花にしばし癒され歩く。独標の頂上への最後の上りは今までにない急な勾配でしたが、これも三点確保で一步ずつ。そして頂上に着いた時は、達成感で満足。皆さん、どの顔も笑顔でした。西穂山荘まで下山して、山荘のおにぎり弁当と石田さんのおいしいコーヒーで休憩してから上高地へ下山しました。この下山が思いのほか長く、下っても下っても下山口に着かない。独標を目指して登るよりも大変でした。しかし、初めての夏山は思い出に残る楽しい山行になりました。リーダー、皆さんありがとうございました。

◆②日本アルプス黎明期の径を辿る

山行日：8月21日(木・夜行バス)、22日(金)～25日(月)

参加者：L佐々木 SL砂川(延) 塩津

ルート：島々～岩魚留小屋～徳本峠(テント泊)～霞沢岳～徳本峠(テント泊)～明神・上高地

行動記録：

8月22日 徳本峠入口 8:20～砂防ダム 9:25～二俣 10:20～中間ベンチ 11:35～13:35
岩魚留小屋 14:00～ちから水 16:35～18:00 徳本峠小屋

8月23日 徳本峠小屋 8:15～11:25 K1 ピーク 11:40～12:10 霞沢岳～ジャンクション
ピーク 16:10～17:00 徳本峠小屋

8月24日 徳本峠小屋 7:20～水場 7:45～9:05 明神



一度は越えてみたかった峠越え島々から徳本峠、霞沢岳 砂川

大阪から「さわやか信州号」の夜行バスで松本に向かう。

宝殿から、加古川から、明石から新快速に乗り合わせてJR大阪駅に向かい阪急BTへ。

22:10発の松本行きまでに少し時間があり、BT近くの居酒屋で下腹にビールをいれる。

これで松本まで熟睡の筈が、うとうとのみで熟睡はかなわなかった。

松本で電車で、島々で上高地行きバスに乗り換えやっとのこと徳本峠出発点の「安曇支

所前」バス停に降り立つ。バスには登山者も乗っていたが、ここで下車したのは我々のみだった。ここでビールを調達するか、しないのかで迷ったが荷が重いことからあきらめる。

しばらくは林道歩きで、これならばタクシーで稼げたかと思ったが直ぐに頑丈な鉄製のゲートがあったり、少し奥には一般車進入禁止のゲートがあったりで、この件は納得して一路、二俣に向け島々谷の溪流に沿って三人でもくもく歩くはめに。林道の水たまりに美しい蝶が舞っている。あまりに美しいので写真に収める。高山蝶かと帰ってから調べると「ミヤマカラスアゲハ」だった。日本で一番美しいと評判の蝶ではあるらしいが、調べると残念ながら高山蝶ではないそう。この島々谷には高山蝶が多く、上高地ではほとんど見られなくなった蝶が見られる場所で蝶ファンには知られたところらしい。



水力発電所があったり、砂防ダムがあったりの林道が二俣まで続いている。二俣のトンネルを越えると取水口の施設があって、島々谷は北沢と南沢に分かれる。

この分岐点にベンチや案内図、トイレがある。ここから徳本峠には南沢に沿って登山道となり一路岩魚留小屋に向かう。登山道は溪流に沿ってつかず離れず岩魚留小屋に至っている。

日本アルプスの父といわれるW・ウェストンも何度も越えた歴史ある道らしく、道中には史蹟、炭焼き跡などがあつた。途中結構、ガレ場があったり、かなり高いところから溪流を見下ろしながら通過するところもあつたが、登山道や何度も渡る木橋も良く整備され道はしっかりとしており歴史を感じさせる。溪流沿いということもあり傾斜もきつなく岩魚留小屋までの11kmをコースタイムよりかなり早い時間の午後1時頃に到着する。

大きなカラマツの木の下に小屋はたたずんでいた。ある意味期待していたし今年からは営業を休止しているとは分かっていた「岩魚留小屋」であつたが、あまりにもうらぶれた小屋の姿に幻滅を感じた。



この徳本峠越え道中にある歴史ある小屋が観光政策上も何とか復活させる手立てはないものかと考えてしまう。この道を歩いて出会った登山者は対抗してきた一組のご夫婦のみであつたから、サモアリナンということかな……と。

でも一度はここに泊まって、歴史を味わいつつ長年の思いであつた昔ながらの小屋を体験して徳本峠に向かいたかつたと少し残念だった。予定ではここにテントだったが、あまりにも裏寂しいところに心がひるんでいる。ゆっくり昼食とするが時間が早いし、ゆっくり歩いても徳

本峠に日暮れまでに届きそうなので徳本に向かう。小屋でビールが飲めるという淡い期待をいだいて…。

しかし……。岩魚留小屋から沢沿いを上り詰めるにつれ登山道の傾斜がきつくなり、途中にある「ちから水」付近からは九十九折れの道となり徳本峠までは、いつ着くのかなと感じたつらい九十九折れの道だった。上高地に入るトンネルが開通するまでは、この峠が唯一の道だったことを考えるとかつては上高地までどんなにか遠かつたことかと思う。

徳本峠にポンと飛び出す感じで小屋前の広場に出た。出た正面が峠の広場でテント場、右方のベンチがある後ろが小屋になっていた。こじんまりとした小屋で正面玄関らしきガラス戸の向こうにはすでに宿泊者が夕食中であるらしかった。時間は午後6時前であった。

テントを設営して早速小屋前のベンチを借りて食事の準備を行い夕暮れと競って食事を摂る。

翌日の霞沢岳も手強そうなので出発は4時起ききの5時出発で眠るが、夜半から風雨が強まり霞沢に出発が叶うのか心配になる。翌朝、時間には出発できなかったが、雨風も収まり7時30分過ぎに出発する。

小屋近くの展望台を通り登山道に出る。木々の間にある展望台からは見晴らしがきき奥穂高岳の雄姿が見えている。今日は天気が良くなりそうで期待できる。しかし、霞沢への登山道は延々樹林帯の中を歩くことに。時々東側島々谷が顔をのぞかせる程度だ。最初の大きなピーク、ジャンクションPへは急登の九十九折れを300mあまり上がる。ジャンクションPの展望は島々谷方面だけで穂高連峰は木間越しだ。次は鞍部に200m足らず降りてK1ピークへのぼり返し300mあまり、この登りはかなりこたえる。大阪からと



いうグループが途中で停滞して弁当を食べている。時間がないのでここから下山すること、K1が直ぐそこなのにと思ったが当事者も残念なことだろう。

K1からの展望は最高であった。正面に前穂から西穂にかけての穂高連峰が目の前に広がっている。遠くに先日行った白山も見えている。お天気は良いし最高の景観を堪能することができた。

これが見たいために、やっとここまでやって来たのだ。あとK2を越えて霞沢岳のピークに行ったが、まずK1からの展望が素晴らしいことから、このK1で十分な気がする。この感動にくらべると、あくまでも霞沢岳は二番煎じの感が無きにしもあらずであった。でも霞沢は霞沢なのだとな納得。

帰り道もジャンクションピークからの下りが半端でなかった。こんなにきついところを上ってきたかなあと、辛抱強く歩くしかなかった。やっと午後5時前にテント場にたどり着く。

昨夜は風雨、今夜は風が強くテントをたたき揺らしている。テントをたたき音に何度も目が覚める。朝起きると西穂の空に黒い雲が立ち込めてきている。早晩雨になることが予想される。テントが濡れると重くなるので撤収を急ぐ。今日は上高地にたどり着くだけなので気が楽である。

明神に午前9時、嘉門次小屋には20分頃には到着して、朝っぱらからであるが待望の焼岩魚にビールで乾杯。しばらくすると、この嘉門次小屋で結婚式があったようで、我々が座っている通路の前を客席に座ったお客の拍手に送られて、お二人が小屋の出先にある穂高神社に手をつないで通って行った。我々も含め今日は良い日だったのだ。今年の夏山集中も良い日で終わったのだとな納得したのだ。

◆③日本で3番目の高峰・奥穂高 に

山行日：8月22日(金)～25日(月)

参加者：L和田 SL瀬尾 三木(悦) 村上

ルート：上高地～岳沢～前穂高岳～奥穂高岳～涸沢～横尾～上高地

行動記録：

8月22日 上高地BT(13:20着)～河童橋14:00発～風穴(14:50着)14:55発～岳沢小屋
(泊16:35着)

8月23日 岳沢小屋6:10発～紀美子平(9:50着)10:15発～前穂高岳(10:55着)11:10発
紀美子平(11:50着)12:00発～南陵の頭14:25～奥穂高岳(14:50着)15:05発～
穂高岳山荘(泊15:55着)

8月24日 穂高岳山荘6:00発～涸沢小屋(8:00着)8:30発～本谷橋(10:20着)10:35発～
横尾山荘(11:40着)12:00発～河童橋(15:00着)



1日目 上高地から岳沢小屋へ

村上

河童橋を後に爽やかな梓川沿いの木道をしばらく歩き、岳沢登山口からカラマツ林の中、岳沢小屋まで標高差700mのひたすら登りです。汗びっしょりになった頃、登山道に涼風が漂ってきました。天然のクーラー風穴で、岩までヒンヤリ冷たくて一休み。ここから少し登ると岩石ごろごろのガレ場です。岳沢小屋はガレ場の上にあります。2006年に雪崩で損壊した後、2010年に再建された新しい小屋です。テラスでコーヒーを飲みながら、穂高連峰を一望し、眼下に上高地を見渡しほっと一息。



2日目 前穂高・奥穂高の頂へ

三木

大きな雨音で目が覚めた。朝食の頃には空が明るくなってきた。小屋の方が「この雨は上がりますよ」と、声をかけてくれた。雨具とヘルメットを着用し出発した。

上高地から見える穂高の山々に憧れ何時かは登りたいと思っていた。岳沢～前穂高～奥穂高のコースが有るのを知り申し込んだ。それから出発まで机上登山とトレーニングをして臨んだ。

だが・・・穂高の岩山はあまりにもスケールが大きくて厳しく、容易には私達を迎えてくれなかった。重太郎新道の急登を進み前穂高と奥穂高を目指したが、歩いても、歩いてもピークは遠く、ポイントにさえ中々たどり着かない状態だった。垂直に架かったハシゴ、スラブ状の岩・クサリ場と危険な所が多く緊張の連続だった。長い時間岩稜帯を歩く体力と緊張に耐えられる精神力が試されるコースだった。幸い天気が味方してくれたので、3000mの2つのピークを踏むことが出来、展望を楽しむことも出来た。

憧れの穂高岳山荘ではビールで乾杯し、長い一日の緊張を解きほぐした。



3日目 穂高岳山荘～ザイテングラード～涸沢～横尾～上高地 瀬尾

朝、窓の外は霧が立ち込めていた。私流の川柳です

- ①「霧の中 ガレ場に気遣い 涸沢へ」
- ②「空晴れて 疲れた足に 気合い入れ」
- ③「穂高岳 登って味わう 素晴らしさ」

リーダーの和田様、三木様、村上様、お世話になり有難うございました。



◆④テント泊で奥穂高 へ

山 行 日：8月22日(金)～25日(月)

参 加 者：L竹内 SL尾越 平井

ル ー ト：上高地～横尾～涸沢～前穂高岳～奥穂高岳～涸沢岳～横尾～上高地

行 動 記 録

| 8月22日(金) | | |
|----------|-------|-------|
| 場 所 | 着 | 発 |
| 上高地 | 5:30 | |
| 明神橋 | 6:50 | 7:30 |
| 徳沢 | 8:20 | 9:00 |
| 横尾 | 9:45 | |
| 本谷橋 | 11:00 | |
| 涸沢テント場 | 13:30 | |
| 8月23日(土) | | |
| 場 所 | 着 | 発 |
| 涸沢テント場 | | 7:40 |
| 穂高岳山荘 | 9:50 | |
| 奥穂高岳 | 10:45 | 11:00 |
| 穂高岳山荘 | 11:50 | 12:40 |
| 涸沢岳 | 13:00 | |
| 穂高岳山荘 | 13:25 | 13:35 |
| 涸沢テント場 | 15:30 | |
| 8月24日(日) | | |
| 場 所 | 着 | 発 |
| 涸沢テント場 | | 7:20 |
| 本谷橋 | 8:40 | |
| 新村橋 | 9:55 | |
| 明神橋 | 11:25 | |
| 嘉門次小屋昼食 | 12:25 | |
| 西糸屋山荘 | 14:30 | |



4コース テント泊で奥穂高岳 涸沢岳

尾越

今年は夏山山行をはじめて提案し、リーダーをすることに、この時点ではワクワク感一杯でしたが、日が迫るにつれ天気が思わしくなくドキドキハラハラの毎日でした。

さわやか信州号グリーンカーで大阪を23時9分出発、3ヶ月前からの予約ですぐに満席になっていた席は天気予報があまり良くないせいか空席があり乗り物酔いする私は後部の席を最前列に変更し安堵、3列シートを独り占めしすぐお休みモードに入る。

5時30分上高地バスターミナル着、涸沢テント場を目指し出発、あんなに心配したのに青い空に白い雲が浮かんだ空を嬉しくて何度も見上げながら横尾までを楽しく歩き、立派すぎる横尾大橋(50年前は丸太だけだったらしい)を渡ると登山

道に入る。屏風岩の迫力ある大岩壁を左側に、緩やかな登りを本谷橋で休憩しながら700mほど登ると涸沢カールに13時頃到着、写真で見る涸沢ヒュッテの屋上テラス、雪渓が目の前に広がり、穂高連峰3000m級4座前穂高岳、奥穂高岳、涸沢岳、北穂高岳に囲まれたこのテント場のカラフルなテントの中に『高御位』と大きく書かれたテントが仲間入りして「穂高に登る」という私の夢のひとつが叶いました。



写真、話で見て聞いていたテント場は岩で凹凸、事前情報のコンパネのレンタルが残り2枚を慌てて確保、危なかった、これがないと手洗い、水場から200mも離れた岩のないところに張ることになります。岩場なので岩と岩の隙にものを落とすと取れないし、朝寝ぼけてお手洗いに行くときは岩から落ちそうになるし、テント場は気が抜けませんでした。夕食は《懐かしのほていの焼き鳥の炊き込み

ご飯、味噌汁、サラダ》と売店のおでん、テント場受付隣に「山岳警備隊基地」の看板があり、天気図、予報が貼り出され男性が2人常駐、明日の天気を聞くと、「天気は貼っていません」と、あまり詳しく無さそうな返事、夜テントの外は暴風雨でしたが、朝は良く晴れてきたので期待して尋ねるが、「そうですね、予報はこうなっていますから、いつ降るかわかりません」と天気は本業ではない様子、幸い一日中良いお天気でした。《ポテトサラダサンド、カップスープ》の朝食を済ませ、パノラマコースの雪渓を横切りツンと尖がった涸沢槍を眺め、やせ尾根のザイティングラードは岩ゴロゴロですが、良く整備され、穂高岳山荘着、奥穂高岳はいきなりの岩登りと梯子で高度を稼ぎ、ライチョウに出会い、頂上近くになると目の前のジャンダルムに勇士が一人見えました。昼食後、涸沢岳頂上から今日③コースが歩く奥穂高岳～吊尾根を眺め、帰路は下の方から吹奏楽の軽快な音楽を聴きながら楽しく岩ゴロゴロを下山、どうやら涸沢音楽祭の日らしく、夕食は《カレーピラフ、パリパリサラダ》と今夜も売店のおでん、生ビールと白ワインで乾杯、夕飯後も「コニャックとワインと音楽の夕べ」が涸沢ヒュッテホールにて演奏され、Hさんはコニャック、(Tさんは早々とお休み)、私は白ワイン(すべて無料)でフルート、クラリネットなど木管楽器の演奏に酔いしれました。《アルファ米にわかめ卵スープの桜エビ雑炊》の朝食を作っていると「夜明けのステージ」の金管楽器がヒュッテのテラスから聞こえ雑炊の朝食を演奏が盛り上げてくれました。今回心配したお天気が予想に反したお陰で、テント2泊の食料も完食、奥穂高岳、涸沢岳にコースLのTさんのお陰でスムーズに登れたのも嬉しかったし、横尾で⑥コースのメンバーと会い徳沢まで疲れを忘れて歩くことができ、嘉門次小屋では②コースの3人の笑顔に迎えられ、思いがけない賑やかなお昼ご飯となり、嬉しく楽しい3日間でした。山の仲間って良いですね。④コースメンバーと皆様、ありがとうございました。



⑤ 燕岳・大天井岳・常念小屋・梅池自然園・天狗平



山行日：8月20日(水)～25日(月)

参加者：L 澤田(律) SL 垣内 井上 瀧原 田羅間(易) 藤田

行 動 記 録

| 8月21日(木) | | | 8月23日(土) | | |
|----------|-------|-------|-------------|-------|-------|
| 場 所 | 着 | 発 | 場 所 | 着 | 発 |
| 中房温泉 | | 5:10 | 常念小屋 | | 6:00 |
| 第2ベンチ | 6:35 | 6:45 | 第1ベンチ | 6:30 | 6:40 |
| 富士見ベンチ | 8:20 | 8:30 | 胸突き八丁 | 7:00 | 7:05 |
| 合戦小屋 | 9:20 | 9:40 | 烏帽子沢 | 8:15 | 8:25 |
| 燕山荘(昼食) | 11:30 | 12:00 | 山の神 | 9:40 | 9:45 |
| 燕岳山頂 | 12:40 | 12:50 | 一の沢登山口 | 10:00 | 10:10 |
| 燕山荘 (泊) | 14:00 | | 穂高駅 | 10:35 | 11:34 |
| 8月22日(金) | | | 8月24日(日) | | |
| 場 所 | 着 | 発 | 場 所 | 着 | 発 |
| 燕山荘 | | 5:15 | 梅池ヒュッテ | | 5:00 |
| 大下りの頭 | 6:25 | 6:35 | 天狗平 | 6:20 | 6:30 |
| 為右衛門吊り岩 | 6:55 | 7:05 | 梅池ヒュッテ | 7:40 | 8:05 |
| 切通岩 | 8:00 | 8:10 | 白馬駅 | 9:45 | 10:06 |
| 大天荘 | 8:50 | 9:00 | 松本駅 | 11:50 | 13:28 |
| 大天井岳 | 9:15 | 9:25 | 上高地西糸屋山荘(泊) | 15:35 | |
| 大天荘 | 9:40 | 10:10 | | | |
| 横通岩 | 13:00 | | | | |
| 常念小屋(泊) | 13:30 | | | | |



8月21日(木) 中房温泉～燕山荘

井上

今年も夏山山行に参加でき、感謝の気持ちでいっぱいである。私にとって、燕岳は3度目の挑戦になる。

今回は夜行バスでなく、秘湯・中房温泉泊の嬉しい行程。岩風呂・不老の湯・沢山の湯めぐりが楽しい(私はチャポンと6回も湯につかった！)

英気を養いリフレッシュに効果抜群！！

早朝5時、気温20度気持ちのいい冷気をいっぱい吸い込んだ。小鳥のさえずり、朝焼け、樹林帯の静寂の中、私たち6人だけのスタート。

身も心も緑に染まった。適度に標識とベンチがあり、景色を楽しみながらゆっくり余裕の歩きが心地よい。富士山・北アルプス・南アルプス・常念岳・等 素晴らしい眺望に感嘆！！

合戦小屋の名物スイカは、冷たくて甘くて最高に美味しかった！！合戦小屋を過ぎると目指す燕山荘が見えてくる。しかし森林限界に入り、岩場で急登になりとても遠かった。

辿り着くとパーッと槍ヶ岳・等の山々が目の前に飛び込んで来た！！感動の瞬間である。

ゆっくりお昼&お茶をして燕岳へ。白っぽい花崗岩の奇岩のオンパレード…。夕日をバックの槍ヶ岳を堪能し、明日も晴れることを祈って…。



8月22日(木) ハイライトコース

藤田

今日歩く径は今回のハイライトコースである。この日だけは何とか天気になってほしい。これが自宅を出る時から私たちの願いであった。槍ヶ岳や穂高連峰が明るく輝いて素晴らしいお天気である。縦走路がハイマツの中を遠くにのびて見える。槍ヶ岳、穂高連峰をたえず視界の中に入れながらハイマツの中を進む。歩き易いやさしい径である。時にコマクサの群落の横を歩いて行く。その時々立ち止まって遠く山を眺め、足下の植物を愛でる。おしゃべりを交えながら、後ろから次々に追い抜かれてもゆっくり進んでいった。大天荘に着いてザックを置いて大天井岳にピストンした。



槍ヶ岳、穂高には雲がかかってきたが我々の進んでいく方は陽が射していた。富士山や南アルプス、安曇野の町も晴れ渡ってよく見えている。大天井岳からの径は上り下りが少なく、高山植物の種類が多い。特に東天井岳の裾は高山植物の中に径がついている。花は終わっているがチングルマの群落が続いていた。やがて横通岳を過ぎて正面に常念岳の登りが見えて来た。そしてはるか眼下に常念小屋の赤い屋根が見えて来た。足はかなり疲れている。気がつけば槍ヶ岳、穂高は雲で既に見えなくなっていた。



8月23日(金) 幸運に満足

瀧原

前日から今日のお天気が心配だった。起床後、窓を開けると強い風と雨。小屋の天気情報や、小屋の主人の「こんな日は行動(縦走)しない方が良い」という言葉にみんなで話し合った結果、下山すると決まった。「山は逃げない、安全第一」という思いであった。

昨日までに素晴らしい panoram を堪能していたので、その幸運に満足していた。

朝食後、6時出発。一の沢コースを下る。風は強かったものの、だんだん雨は止み、樹林帯の中では雨具はいらなくなった。急な下りをするときに青空が見えたかと思うとガスが出てきたり、山の天気はころころ変わる。予定通り全員無事、下山口に着き、予約しておいたタクシーで駅へ向かった。

白馬へという案が出て観光案内所で宿を頼み、今日の宿は「柵池ヒュッテ」で午後は「柵池自然園」散策となった。そこでは3時間予定コースをすべて回り、さまざまな高山植物を楽しんだ。柵池が初めてだったので、このサブメニューも私にとっては楽しいものであった。ここから眺める白馬の山々に、いつか行ってみたいという思いが湧いてきた。



8月24日(土)コース変更もまた、面白い

田羅間

早朝5時柵池ヒュッテ出発、登山口から階段の登り。途中笹林のすき間から朝日を見ながら、石とぬかるみと階段に足を取られないように気をつけつつ少し急ぎ足で登る。

白馬の山々や雪渓も見え、途中岩場やチングルマの花が残っていたところもあり、天狗原まで1時間20分(本当は白馬乗鞍まで登りたかったが・・・)ヒュッテに戻り、ロープウェイ、ゴンドラ、バスを乗り継いで白馬駅へそこからまた電車とバスで上高地へ入る。

ほぼ雨に降られずみんなのいる西糸屋山荘に着く。

コース変更があったり、予定とは違った山行でしたがそれはそれで面白い山行でした。

◆⑥北アルプス表銀座コースを縦走する



山 行 日：8月20日（水・夜行バス）、21日（木）～25日（月）

参 加 者：L上田 SL西口 大谷 河合

行 動 記 録

| 8月21日(木) | | | 8月23日(土) | | |
|-----------|-------|-------|-------------|-------|-------|
| 場 所 | 着 | 発 | 場 所 | 着 | 発 |
| 中房温泉 | 8:30 | 8:50 | ヒュッテ西岳 | | 5:55 |
| 第1ベンチ | 9:25 | 9:35 | 水俣乗越 | 7:10 | 7:15 |
| 第2ベンチ | 10:05 | 10:10 | ヒュッテ大槍 | 9:40 | 9:55 |
| 第3ベンチ | 10:45 | 10:55 | 槍ヶ岳山荘 | 11:00 | 11:25 |
| 富士見ベンチ | 11:45 | 11:55 | 槍ヶ岳頂上 | 11:55 | 12:15 |
| 合戦小屋 | 12:25 | 12:45 | 槍ヶ岳山荘 | 12:45 | |
| 燕山荘(泊) | 14:30 | | | | |
| 8月22日(金) | | | 8月24日(日) | | |
| 場 所 | 着 | 発 | 場 所 | 着 | 発 |
| 燕山荘 | | 4:55 | 槍ヶ岳山荘 | | 4:55 |
| 燕岳頂上 | 5:25 | 5:35 | 殺生分岐 | 5:10 | |
| 燕山荘 | 5:50 | 6:00 | 天狗原分岐 | 6:30 | |
| 蛙岩 | 6:40 | 6:45 | ババ平 | 7:45 | 8:20 |
| 大天荘 | 9:15 | 9:20 | 槍沢ロッジ | 8:42 | |
| 大天井岳 | 9:30 | 9:40 | 横尾山荘 | 10:15 | 10:35 |
| 大天荘 | 9:50 | 10:30 | 徳沢 | 11:00 | 11:40 |
| 大天井ヒュッテ | 11:05 | 11:15 | 明神館 | 12:35 | 12:45 |
| ビックリ平 | 11:45 | 11:55 | 上高地西糸屋山荘(泊) | 13:30 | |
| ヒュッテ西岳(泊) | 13:50 | | | | |



憧れの「北アルプス表銀座縦走コース」に参加して

西口

高御位山遊会に入会して今年で3年。初めて夏山集中山行に参加した。

「槍ヶ岳」に登りたい気持ちから躊躇することなく、⑥コースに決めた。

1日目。中房温泉登山口から燕山荘。そして燕岳に登頂する予定だった。6月頃よりトレーニングも重ね、体力的にも大丈夫だと思っていた。ところが、第2ベンチに到着した頃から、頭痛と吐き気の症状が出始めた。「これは一体どうしたのか？」と、自問自答するが症状はだんだん悪くなる。

合戦小屋でスイカを食べるのを楽しみしていたので、パーティーの仲間達と賞味するが味がわからない。富士見ベンチ辺りでついに脚が前に出なくなり、20担いでいた水も半分以上捨て、ザックの荷物をパーティーの仲間に分散して担いで貰うはめになった。リーダーの上田さんが、私の気を紛らわしてやろうと高山植物の名前を色々教えて下さるが、馬耳東風状態。燕山荘が目の前に迫って来た時には、ザックも担いで貰う事になり、全く情けない。息も絶え絶えになりながら燕山荘に辿り着いた時は本当に嬉しかったし、パーティーの皆さんに感謝の気持ちで一杯だった。暫くして、燕山荘に併設された診療所で受診すると軽度の高山病と診断された。明日からの山行が危惧された。





2日目。パーティーの仲間達の支えと、処方薬で体力は回復。お天気も申し分無し。切通～大天井岳～ヒュッテ西岳(泊)を目指す。歩行時間5時間50分の予定のコースだが、昨日の私のせいで登れなかった燕岳に登頂した為、プラス1時間。表銀座縦走の始まり、長い1日になりそうだった。

縦走路から振り返ると燕岳、右手遙か後方に立山、劔岳、前方には大天井岳、槍ヶ岳。360°の大パノラマに感動する。そして「喜作新道」を整備したという小林喜作さんのレリーフを見て、又、興味深い喜作さんのスーパー猟師振りも教えて貰い、大天井岳を目指した。快適な稜線歩きが続いた。そして本日の山行も終盤になりボツボツ歩き疲れた頃、ヒュッテ西岳の屋根らしき物が見えた時やっと小屋だと嬉しくなったが、残念。大きなケルンだった。それから少し歩くとやっと小屋に到着。お疲れ様だった。

3日目。ヒュッテ西岳～水俣乗越～ヒュッテ大槍～槍ヶ岳山荘。それから、槍ヶ岳山頂往復。

夜中から降り出した雨の為、出発を1時間遅らす事になった。西岳からは山容が大きく変わり、ガレ場の多い登山道となり、多くの鉄梯子や鎖が有るので、「ヘルメットを着用、3点支持を守るように。」と注意を受けた。小雨も降っていたので気を許せない。水俣乗越まで約300m下降する。この辺りからお天気も回復。見晴らしも良くなり槍ヶ岳山荘までアップダウンはあるが、尾根歩きが続く。「まさに槍ヶ岳は北アルプスのランドマークだ」と思いつつ、憧れの槍ヶ岳に近づく楽しさを噛みしめながら歩みを進め、ヒュッテ大槍に到着。ここからは稜線歩き約40分で槍ヶ岳山荘に到着。今日も良く歩いた。少し休憩した後、最終目的憧れの槍ヶ岳に登頂。名前の如く天に槍を衝く形が特徴的である。お盆休みも終わっていた為、心配した渋滞はあまりなかった。ほぼ垂直な長い鉄梯子や鎖はそんなに苦労は無かったが、岩場をよじ登る時、手も足も短い私は、何処に脚を置き、何処を掴めば良いのか至難した。槍ヶ岳山頂の景色は高度感満点で最高だった。下山してパーティーの仲間達と握手を交わした時、3日間の色々な事が交錯して思わず涙がこぼれた。Kさんに、「最後まで一緒に山行出来て良かったね。」と、労いの言葉をかけて貰った。有難う!!

4日目。4時55分ヘッドランプを着けて、ひたすら上高地の西糸屋山荘を目指して、怪我の無いように下山する。お天気が悪く、上高地に下りるまで雨具を着用した。途中、雪渓を恐る恐る15分程下るのは想定外の事だった。長い山行も無事終了。私の夏も終わった。

又来年もチャンスがあれば、夏山集中山行や、錬成山行に参加したいと思っている。

初日は、可愛い高山植物を観賞する余裕はなかったが、2日目からは、コマクサ・チングルマ・トリカブト・ウサギギク・ニッコウキスゲ・ハクサンイチゲ・・・等の高山植物も観賞出来た。

上田さん、皆さん有難う。参加出来た幸せを噛みしめた夏山山行だった。

◆高竜寺ヶ岳

山 行 日：9月6日(土)

参 加 者：La 和田 SLa 森本 阿江 狩集 長谷川(孝) 田羅間(易) 村上

Lb 瀧原 SLb 西口 関山 田羅間(勤) 時井 田中(美) 田中(由)

行 動 記 録：産魂神社P (10:35 着)10:50 発～登山口 11:10～稜線合流点 12:25～頂上
(12:45 着・昼食)13:35～稜線合流点 13:45～登山口 14:25～産魂神社P 14:45



久しぶりの山行 高竜寺ヶ岳

阿江

久しぶりの山行。前々から天気が気になっていましたが今日は昼から雨マークの予報です。一番電車で集合場所宝殿駅に行く予定が播磨中央公園に回りますとの事で、こちらから5名が乗り、14名の参加で高竜寺ヶ岳へ出発。途中トイレ休憩しながら、高竜寺公民館を目指す場所が分からず、たんたん温泉の看板を見ながら行き過ぎてしまい、後戻りしました。たんたん温泉の看板の後に標柱「高竜寺ヶ岳登山道」がありました。道なりに高竜寺地区の集落があり要所には「高竜寺ヶ岳登山道」「登山道直進」などがあり、無事に産魂神社駐車所に到着しました。

ストレッチをすませ、2本のストックを出しました。道路脇に「高竜寺ヶ岳登山道直進」「山頂まで80分」の標柱に従って林道を進むと直ぐに獣避けゲートがあり、通り抜けて進んでいきます。「高竜寺ヶ岳登山口」「山頂まで1500m」とあり、ここから山頂に向けて登ります。かなり傾斜のある細い尾根を登っていきます。いつものゆっくりで皆さんに申し訳なく思いながら、リーダーの後を登りました。自然林に囲まれ気持ちが癒されながら登ると中間地点の木に「山頂まで1000m」の標識がありました。また「山頂まで30分」とあり、傾斜のきつい所にはロープがありました。木に「山頂まで500m」や「山頂」の標識が取り付けられてあり、山は登山口から頂上まではよく整備された一本道で、急な坂をどんどん登ります。途中の道端の林床にはイワカガミの暗緑色の艶のある葉が多くあり、春にはラッパに似たピンク色の花が楽しめるということです。



山頂の東屋にはテーブル・ベンチがありました。そこで景色を眺めながらの昼食。賑やかな一時を過ごしました。テーブルの横のケースに高竜寺ヶ岳登山感想を書くノートがありました。広々とした山頂、ぼんやりですが日本海も見えました。山々とその方角を示す素敵な表示板があり、気持ちの良いパノラマの眺めです。

集合写真を写し、下山は来た道を折り返します。途中で雷がゴロゴロ鳴りだしました。

気持ちも急ぎ、雨がパラパラと降りだしましたので、下山は急ぎ足で早かったです。

お堂に「地元高竜寺ふるさと委員会」が制作された「登山記念木札」という可愛いのがあり、記念に一枚頂き、帰宅後月・日を記入しました。ストレッチも終わりバスに乗る時から本降りの雨になりました。区長さんのご好意でトイレや着替えに高竜寺公民館をお借りしました。

帰り道、おばあちゃんの里に寄りました。車中土砂降りの雨、バスのワイパーも全開の

すごい雨でした。バスから降りる時は小降りで助かりました。ふるさと兵庫50山に選ばれている高竜寺ヶ岳の近くに、たんたん温泉やシルク温泉があり、リフレッシュしたい思いもあり、それを横目に見ながらの帰路は心残りでした。先だつての雨で道路も通行止めが一部あり、道も回り道で時間がかかり、運転手さんにも御手数かけました。

高竜寺ヶ岳は遠距離でしたが、リーダー和田様はじめ、皆様ありがとうございました。

登山中の殆どは晴れ、下山途中の雨もたいしたことなく楽しい山行でした。春にイワカガミのピンク色の花を見にシルク温泉泊まりでもう一度訪れたいです。

◆ロープワーク講習

講習日：9月3日(水) 善防山
時間：9：00～12：00
参加者：L大瀬 S L瀬尾 垣内 澤田(律) 瀧原
待場 三木(悦)



ロープワークの講習 待場

何年経っても熟知できていない。その時には、分かっているけど…数日すると忘れていた。この繰り返しであった。高い山など行くときには練習(トレーニング)をして覚えては行っているがなかなか…。

ロープが必要なのは、高山だけではない。低山でも濡れた岩場の通過など崩壊斜面のトラバースなどで事故を起こさないためにロープをセットする。

フィギュアエイト・ノット オーバーハンド・ノット
ダブルフィッシャーマン ムンター・ヒッチ バックマン・ノットなど結び方、支点の作り方 横にロープを固定する。(悪場のトラバース) 縦にロープを固定する。(急傾斜の登り方) 傾斜のトラバースでその場で止まる方法、確保よる登り方。最後のロープ、スリング、カナビナの回収が一番難しく心配に思う。今回、強く感じたことは「安全に安心して登山する」ために、山に行くためのトレーニングと同じように、現場でのロープ・ワークトレを重ねることが大事だと思った。

リーダー、サブリーダーは基本装備、安全環やカラビラ・スリングを余分に持つこと。
今回の善防山での講習でやっと覚える事が(少し自信)できたように思う。(今のところは)

